

第2回「第2期磯子区地域福祉保健計画」策定委員会議事録	
開催日時	平成21年12月16日(水)18時30分から20時15分まで
開催場所	磯子区役所7階701会議室
出席者	<p>策定委員：別添1のとおり(欠席：早乙女幸男委員・佐藤孝明委員)</p> <p>事務局：別添2のとおり、傍聴人：なし</p> <p>関係者：根岸地域ケアプラザ長谷川コーディネーター、滝頭地域ケアプラザ高橋コーディネーター、磯子地域ケアプラザ水村コーディネーター、新杉田地域ケアプラザ岸本コーディネーター、洋光台地域ケアプラザ松田コーディネーター、岩澤副区長、桑原危機管理担当係長、島村高齢・障害係長</p>
概要	<p>I 挨拶等 福祉保健課長より</p> <p>II 議題</p> <p>1 第2期計画策定に向けた平成21年度中の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1を事務局より説明。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>[資料説明補足] 各種団体代表の皆様については、地区代表の方々と同様に話し合っただけは難しいと思う。そこで、それぞれの団体の中で地域福祉保健計画の策定状況等について情報提供をしていただき、少しでも周知し、ご意見等をいただけたらと考えている。</p> </div> <p>2 第2期計画策定に向けて検討する具体的事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2(1)～(4)を事務局より説明。 <p>吉田委員長：今の説明のうち、(1)エの部分と(2)が新しい提案といえる。</p> <p>(2)は地区別計画に盛り込まなければならないため、是非、活発なご意見をいただきたい。その前に確認したいのだが、共通テーマの2項目について、第1期の各地区の取組状況はどのような様子か。</p> <p>運営企画係長：第1期計画では新しい取組を掲載しなければという思いもあり、脈々と継続してきた支えあい事業については、あえて事業名を計画に掲載していない地区が多い。要援護者に対する取組については、いくつかの地区でスイッチONの取組として実施していただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2(1)計画の役割・考え方について <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>[資料説明補足] “単位自治会町内会毎に”と書いてあるが、単位自治会町内会の取組を計画書に列挙していただきたい訳ではない。「地区全体で目標を共有しつつも、実際の取組は高齢者でも歩いて行ける程度の身近な範囲で行う」という進め方を提案させていただいた。</p> </div> <p>村岡委員：「エ」についてだが、地区社協を推進組織にした場合、単位自治会町内会との関係はどうなるのか。</p> <p>運営企画係長：ここで言いたいことは、連合全体を対象にした事業は対象となる範囲が広いと、事業を進める役員の皆様に大きな負担がかかってしまうので、もっと小さな範囲を対象にして事業を進めた方が、負担も少なく、効果も上がるのではないかとことだ。例えば、サロンを開くなら高齢者でも歩いて行ける身近なところで実施していただきたいということだ。</p>

櫻井委員：私の地区では、連合が呼びかけて単位自治会町内会毎にいろいろなやり方で事業を進めている。

大平委員：地区社協の取組はスイッチONの取組になるのか。

櫻井委員：地区社協の取組もスイッチONの取組とすればよいのではないか。

村岡委員：例えば、（上中里）地区センターから遠い地域にお住まいの方に対しては、近くの会場で行うという形で良いということか。困りごと事業は、上笹下連合地区参加の全ての自治会町内会で実施することはできないが、それでもよいということか。

運営企画係長：各地区で様々な考え方があろうが、基本的にはそれで良いと考えている。

・資料2（2）共通テーマについて

〔資料説明補足〕“支えあい事業”という言い方では、これまでの支えあい事業のイメージにとらわれてしまうので、例えば“支えあい活動”とするなど名称については今後検討したい。なお、この2つのテーマは今後欠かすことのできない取組だと考えて提案させていただいた。区役所各課も連携していきたい。

櫻井委員：共通テーマを決める方法は、やりやすい形だと思う。支えあい事業は自治会町内会でやっている事業だ。要援護者のサポートの推進は新しいテーマなのではないか。いずれにしても、この2本を中心にして、その他の福祉保健に軸足を置いたテーマを地区の実情に合わせて付け加えたり、外したりすればよいのだから簡単になったのではないか。

第1期の時はいろいろな内容の取組が入ってきたが、今回は軸足がはっきりした。私はこの提案で良いと思う。

大平委員：櫻井委員の言うとおおり、テーマが絞られればやりやすくなる。支えあい事業の訪問活動は、相手によっては断ってくる場合もある。そのような場合は他の方法で取組んでいる。

また、洋光台は、一人暮らし高齢者を対象に「防災パスポート」の取組を実施してきたが、一昨年から区の事業にも取り組むようになった。「防災パスポート」は民生委員が担当しているが、区の事業は自治会が担当している。この2つの取組が一緒になればと思っている。

吉田委員長：皆さんの活発なご発言をいただいているところだが、共通テーマが前面に出過ぎてしまい、スイッチONの取組がこの2つだけにならないように願いたい。

岡委員：発言を聞いていて、地域によってこんなにも実情が違うことに驚いている。

例えば、汐見台は福祉実行委員会で「支えあい事業」を行う一方で、防災防犯委員会で第2期計画を進める準備をしている。

また、「イ」については、要援護者の名簿はいただけるのか。

運営企画係長：地域によって状況が違うことは了解している。地域ごとに良く話し合っていきたい。汐見台地区でどのように進めていくかは、これから相談をさせていただきたい。本日は、共通テーマをこの2つにするかどうかを提案している。繰り返しになるが、この2つは今後も必ず継続していくテーマだと考えているので、取り上げさせていただいた。

岡委員：了解。

吉田委員長：このテーマは広く考えて、取り組むことが必要ではないか。

櫻井委員：要援護者の名簿の話が何人もの委員から出ている。私もかつて行政に要援護者の名簿を欲しいと依頼した。個人情報の保護があるから名簿は出せないというから、自治会で苦労して独自に要援護者の調査をした。この名簿は、常に実態に合わせて更新をしている。自治会の関係者15名がこの名簿をもっている。個人情報の保護などというが、こういう名簿がなければ要援護者への援護活動などできるわけがない。

吉田委員長：いろいろとご発言をいただいているが、この2つを基本的な共通テーマとすることでよろしいか。

福祉保健課長：要援護者サポートについて少々補足したい。現在、各区で取り組んでいるが、（行政が提供する名簿を使う）同意方式、（地域で対象者を捉えていく）手上げ方式、それらを併用する方式など様々である。是非、地域に戻られてから、どのように取り組んでいくのがよいか検討していただきたい。磯子区としては、各地区が実情に応じて具体的な方法を選択していただきたいと考えている。

吉田委員長：テーマとしては了解をいただいたので、今後の各地区の話し合いの中で地域の実情を尊重しながら検討をお願いしたい。いずれにしても、少子高齢社会が進むなかでこの2つのテーマは避けて通れないものだ。

・資料2（5）（6）を事務局より説明。

〔資料説明補足〕（5）10月28日に開催した第1回策定委員会以降、地域の皆様にといろいろとお話を伺った。その上で、10月28日の内容を変更してご提案させていただきたい。（6）申請方法を始めとした実務内容については今後検討していきたい。

櫻井委員：補助金は申請した地区に出すと書いてあるが、申請書の作成が大変だ。区社協に出す書類と区役所に出す書類を1回で済むような方法を工夫してほしい。また、このことは、福祉分野だけに限ったことではない。磯子区役所全体の改革という意識でお願いしたい。

吉田委員長：申請方法、交付方法についての見直しの強い要望ということでよいか。

櫻井委員：難しいことではあるが、皆さんそのように思っているのではないか。

大平委員：事業の対象となる人たちにとっては区社協の補助金か区役所からの補助金か分からないし、関係ないのだから、申請も簡易にできるようにしてほしい。

吉田委員長：難しい宿題かと思うが、事務局にはよく検討していただきたい。

3 第2期計画の概要について

・資料3（1）～（6）を事務局より説明。

〔資料説明補足〕地区別計画の部分について、3月までに作り込んでいただくつもりはない。本日の会議内容を参考にしつつも、第1回目の説明のとおり、3月までは“主に”振り返り期間とし、4月以降に第2期計画の内容の検討を始めていただきたい。

吉田委員長：もう少し熟してきたら委員の皆さんのご意見をいただくこととしたい。

4 地区別策定会議の開催状況報告について

小宮山委員：[屏風ヶ浦地区の開催状況を報告] 10月の地区連で開催趣旨を説明。屏風ヶ浦地区は広く、また自治会町内会も20あるので、3回に分けて策定会議を実施した。支えあい事業が始まったところからの経過を説明し、今後自治会町内会とどのように関わりをもっていか話し合った。1年で交代する自治会町内会長にとって、継続して事業を把握し進めていくことは難しいので、民生委員・児童委員にも、別に集まってもらい趣旨の理解を深めている。

櫻井委員：[杉田地区の開催状況を報告] 区の策定委員会開催後に杉田地区の策定会議を開催している。11月上旬に自治会町内会長を集めて区の第1回策定委員会の内容を報告した。次は、12月中に本日の委員会の内容を受けて、第1期計画の振り返りを行う予定だ。

大平委員：[洋光台地区の開催状況を報告] 12月9日に自治会町内会長、地区社協、スイッチONの推進員があつまり、3年間の振り返りを行った。

平戸委員：[磯子地区の開催状況を報告] 1回目は6人ほど集まって相談し、2回目は16人の自治会町内会長とスイッチON事業の担当者が集まり、話し合いを行ったところだ。

須川委員：[根岸地区の開催予定について] スイッチONの推進委員の間では2回話し合いを行っており、第2期計画は今までの活動に肉付けをする方向で考えている。策定会議についてはある程度準備ができていますので、近日中に実施予定だ。

5 その他

運営企画係長：①今回資料を事前送付するにあたり「質問書」を同封したところ、上杉委員から事前にご質問をいただき、本日の委員会が始まる前にご説明させていただいた。今後も「質問書」を同封し委員会の円滑な運営に努めていきたいので、ご活用いただきたい。

②本日、ある自治会の方から「福祉と保健に関する地域調査」の資料がほしい旨の電話をいただき、さっそく必要部数をお送りした。皆様のお手間をとって実施した調査であり、ぜひご活用していただきたいと考えている。ご希望あれば事務局までご連絡いただきたい。

Ⅲ 閉会

鈴木副委員長：①「地域支えあい事業」については、(本日の説明では)事業要綱は開始以来改正されつつも継続しているとのことだが、第1期計画を策定した当時は、区役所からこの事業は中止したいとの趣旨の話があったのは事実である。我々がその提案を押し返したので現在も続いていると地域としては理解している。支えあい事業の内容は民生委員の日常業務と似通っているが、民生委員で手が足りない時は、自治会町内会で手伝っている。地域の実情や訪問される側の事情もあり、具体的な活動の進め方は、実にさまざまである。

②要援護者の名簿についてだが、例えば私の町内会は端から端まで歩いて30分もかかる。そのような遠くに住んでいる要援護者の名簿があっても、いざという時に援護はできない。やはり向こう三軒両隣の人間関係作り、すぐに行かれる繋がり作

りが福祉の基本で大切なことだ。最近の話だが、近所の一人暮らしの方の家の明かりが夜になっても点かないという連絡が、隣人から町内会役員と民生委員にあり、警察が親類の人と一緒に入ってみると、倒れていた方を発見した。倒れてから5日も経っていたようだが、近所の人との連絡のおかげで一命を救うことができた。要援護者の名簿云々よりも、近所で気にし合えるような人間関係作りが大切だ。

③社協も自治会町内会も地元では同じ人が担っている。区のレベルでは区社協と区役所は別組織だが、地元に来れば同じである。行政は地域の実情をもっと理解してもらいたい。

齊藤担当部長：活発にご意見をいただくなかで、皆様の地域を思う熱い気持ちを改めて感じた。また、補助金のあり方についても課題提起していただいた。地域福祉保健計画というと堅苦しく聞こえるが、内容は私たちの日々の生活に関するものであるの
で、できるだけ柔らかく分かりやすいものにしていきたい。今後も引き続きよろしくおねがいします。

『第 2 期磯子区地域福祉保健計画策定委員会』名簿

平成 21 年 12 月 16 日現在

		所 属	氏名 (敬称略)
各種 団体 代表 (氏名 五十 音順)	1	磯子区社会福祉協議会当事者団体部会 部会長	上杉 惇
	2	磯子区内障害者施設 代表 (※1)	小田嶋 悟
	3	磯子区民生委員児童委員協議会 副会長	小宮山 滋 (兼)
	4	磯子区体育指導委員連絡協議会 副会長	佐藤 孝明
	5	磯子区連合町内会長会 副会長	鈴木 伊三雄
	6	磯子区医師会 福祉医療事業部会長	瀧本 篤
	7	磯子区保健活動推進員会 副会長	田辺 実 (兼)
	8	磯子区内ボランティア・市民活動関係団体 代表 (※2)	時任 和子
	9	磯子区青少年指導員協議会 副会長	福士 市子
	10	磯子区社会福祉協議会 副会長	吉田 修
地区 代表	11	根岸地区 代表	須川 さよ子
	12	滝頭地区 代表	古知屋 多恵子
	13	岡村地区 代表	早乙女 幸男
	14	磯子地区 代表	平戸 栄次
	15	汐見台地区 代表	岡 道子
	16	屏風ヶ浦地区 代表	小宮山 滋 (兼)
	17	杉田地区 代表	櫻井 重人
	18	上笹下連合地区 代表	村岡 宗夫
	19	洋光台地区 代表	大平 清子
	20	上笹下地区 代表	田辺 実 (兼)
行政 等	21	磯子区内地域ケアプラザ 代表 (※3)	水越 尚登
	22	磯子区地域振興課長	関本 利恵子
	23	磯子福祉保健センター長	宇賀神 憲治

※1 いそご地域活動ホームいぶき施設長

※2 NPO 法人夢・コミュニティネットワーク代表 (磯子区 NPO 連絡会事務局長)

※3 滝頭地域ケアプラザ所長

『第2期磯子区地域福祉保健計画策定委員会』事務局名簿

平成21年12月16日現在

所 属		氏 名
1	磯子福祉保健センター 担当部長	斉藤 林福
2	福祉保健課長	戸塚 徳雄
3	運営企画係長	中村 仁
4	運営企画係職員	伊東 秀明
5	同上	近藤 玄樹
6	同上	伊東 ゆかり
7	同上	柴原 あづみ
8	健康づくり係長	菅野 美穂
9	高齢・障害支援課長	嘉代 哲也
10	こども家庭支援課長	佐藤 眞理代
11	磯子区総務部地域振興課 地域力推進担当課長	平石 浩二
12	地域力推進担当係長	森田 純
13	地域力推進担当職員	田中 さゆり
14	磯子区総務部総務課 総務課長	金子 裕
15	磯子区社会福祉協議会 事務局長	内藤 博昭
16	事務局次長	中島 美樹子
17	職員	並木 史江
18	職員	大久保 敦子